

鹿児島市内の蔵元

ほんぼう

本坊酒造

代表銘柄 あらわざ桜島

電話番号 210-1210

所在地 南栄三丁目27



ひがし

東酒造

代表銘柄 七達

電話番号 268-2020

所在地 小松原一丁目37-1



さがら

相良酒造

代表銘柄 相良

電話番号 222-0534

所在地 柳町5-6



さつま無双

代表銘柄 さつま無双

電話番号 261-8555

所在地 七ツ島一丁目1-17



さんわ

三和酒造

代表銘柄 三和鶴

電話番号 284-2180

所在地 七ツ島一丁目1-17



※お酒は20歳になってから
 ※飲酒運転は絶対にやめましょう
 ※飲酒は適量を守りましょう
 ※妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください

知ってる？

ナンコ

鹿児島に古くから伝わる遊びで、お客さんを歓迎し、酒席を景気づけて親睦を深めます。

向き合った2人が、それぞれ木の棒を3本ずつ後ろ手に持ち、その中の何



本かを片手で隠して前に出し、2人の合計を当てる遊びです。

とうじ 杜氏に聞く！ 焼酎あれこれ

そこでしか造れない焼酎

焼酎造りは、その土地の風土に大きく左右されるため、同じ原料を使ったとしても、場所が違えば同じ味になることはありません。麴など微生物の力を利用しているため、同じ蔵で造ったものであっても微妙に味が変わることもさへあります。杜氏になって4年、これまで最高の焼酎ができたと思ったことはありません。もっとおいしいと思ってもらえる焼酎にするためにどうすればよいのか、常に考えながら作業する日々です。

鹿児島の焼酎の魅力は、多様さ

鹿児島の芋焼酎と一言で言っても、各蔵に個性があり、さまざまな味わいがあります。その種類の多さ、多様さこそが鹿児島の焼酎の魅力の一つだと思います。ぜひいろいろな焼酎を味わって、自分の好きな味を探してみてください。

手軽に美味しく「前割り」

「前割り」は、焼酎をあらかじめ水で割っておくことで、焼酎と水がなじみ、よりまろやかになります。割り水には水道水ではなく湧き水などを使い、香りの移らないガラスや陶器などに入れるのがポイントです。数日間冷暗所か冷蔵庫で保管してから、お好みの飲み方で楽しんでください。

※杜氏…酒造りの職人の頭のこと。酒造りの職人全体をいうこともある



三和酒造 杜氏 和齊 力さん(41)

前割り焼酎を黒ぢよかで！



鹿児島初！ 11月1日は「本格焼酎の日」

焼酎ストリート

Shochu Street 2016

11.1 TUE 17:30~20:00 11.2 WED 17:30~20:00 11.3 THU 11:00~17:30

場 所 天文館本通り／天神おつきやびらも〜る

県内113全ての蔵元の焼酎が500円で6杯楽しめます。抽選で本格焼酎のプレゼントも。
 【問い合わせ先】
 焼酎ストリート事務局
 ((株)西広内)226-5545
 ホームページもご覧ください。
<http://shochu-street.com/>

本格焼酎



●ラベルに「本格焼酎」と表示できるのは、麴にイモや黒糖などの主原料を加えて発酵を進め、できたもろみを単式蒸留機でじっくり蒸留して造られる、砂糖やアルコールなどの添加物が一切無い焼酎のみ。原料の風味が豊かで、味わい深いのが特徴。



イモ選別の様子

●「薩摩焼酎」は、鹿児島県産のサツマイモと水を使い、鹿児島県内で製造・容器詰めされた本格焼酎しか表示することができません。これは、原産地を「薩摩」として特定することにより地域ブランドを守るもので、平成17年にWTO(世界貿易機関)の認定を受けました。



市長

コラム



鹿児島市長

森 博幸

■スポーツの力

日本中が感動で盛り上がったリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが閉幕しました。連日の各選手の活躍に、テレビの前で熱い声援を送り続けた方も多かったのではないのでしょうか。

陸上女子5千メートルの上原美幸選手の度胸満点の走りや男子ラグビー(7人制)の桑水流裕策選手の力強いトライなど、本市出身選手の活躍には応援する側も一層力が入りました。

スポーツは、単なる勝敗だけでなく、最後まで諦めない姿やフェアプレー精神など、人の心を動かし、元気にする力を持っています。大会期間中は、そんな素晴らしいスポーツの力を実感する毎日でした。

舞台は4年後の東京にバトンタッチされました。そしてその年は、鹿児島で国民体育大会が開催されます。これから新たな目標に向かって努力する選手をはじめ、次代を担う子どもたちにエールを送り続けたいと思います。

■「森のおしゃべり」の出版に寄せて

「大造じいさんとガン」「マヤの一生など、動物との関わりを描きながら、命の大切さを伝えてきた児童文学作家、椋鳩十さん。本市では、椋さんの文学に対する思いを継承し児童文学の振興を図るために、平成27年度から児童書の出版に対して助成する制度を設けています。

第1回の対象作品「森のおしゃべり」がこのたび出版されました。この本は、鹿児島市在住の作家、たにけいこさんの作品で、屋久島の大自然の素晴らしさに触れた作者がその感動を歌った詩に、やさしい色彩の絵を添えた絵詩集です。ユニークな視点で描かれた「ミミズの日記」「コケたろう」など、生き物に対する温かいまなざしや観察力が感じられ、まさに椋さんの児童文学の世界をほうふつとさせる作品だと思えます。今後、「森のおしゃべり」は一般に販売されるほか、学校や公民館の図書室などにも置かれる予定です。読書の秋、皆さんも手に取って、お気に入りの詩を見つけてみませんか。

